



# 徳川美術館 名品コレクション展示室

令和6年 3月26日(火)～6月9日(日)

展示期間 A:3/26(火)～4/18(木) B:4/19(金)～5/12(日) C:5/14(火)～6/9(日)

【第4展示室】

## 武家の式楽 ー 能 ー

足利將軍家は、猿楽＝能を庇護し、高度に洗練された舞台芸能に育てあげた。大名たちにも大いにもてはやされ、公式行事に演能は欠かせぬものとなった。江戸幕府もこの伝統を承け、舞楽が公家の式楽であったのに対して、能を武家の式楽と定めた。

御殿の広間の前庭には能舞台が設けられており、慶事や公式行事の際には必ず能が演じられ、それを見ながら宴は進められた。そのため大名家には能役者が召抱えられ、各種の曲目に応じられるように、いろいろな装束・能狂言面・小道具が備えられていた。

正月二日(後に三日)には幕府で「謡初め」が行われ、大名家でも年中行事とされた。大名自身も謡い、時には自ら舞うことも必須の教養とされていた。

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	能面 小面		江戸	18	A
2	能面 増 焼印「天下一近江」	近江満昌作	江戸	17	B
3	能面 若女 朱漆花押	伝出目栄満作	江戸	17	C
4	能面 大飛出	伝是閑吉満作	桃山-江戸	16-17	A
5	能面 頼政		江戸	17-18	B
6	能面 木汁怪士 刻銘「木汁アヤカシ」	伝近江満昌作	江戸	17	C
能舞台					
7	紺地檜垣に竹の丸文袷狩衣		江戸	18	A
8	紺地牡丹・獅子丸文金襴袷狩衣		江戸	18	B
9	浅葱地柳に燕文単狩衣		江戸	18	C
10	萌黄地雲巴文金襴袷法被		江戸	18	C
11	黄地枝垂桜に尾長鳥文金襴長絹		江戸	17-18	A
12	白地震に藤文金襴長絹		江戸	18-19	B
13	松葉色地鶴亀文掛直垂		江戸	18-19	A
14	花色地切金に鶴亀文掛直垂		江戸	19	B
15	花色地菊松皮菱七宝崩し文掛素袍		江戸	18	C
16	紅・白段金霞枝垂桜に扇文唐織		江戸	19	A
17	紅・浅葱段入子菱に牡丹蝶文唐織		江戸	17	B
18	格子と青海波に唐花文段替厚板		江戸	17-18	A
19	萌黄地亀甲に鳳凰文厚板		江戸	17	B
20	格子と紅地飛雲・卍文段替厚板		江戸	17	C
21	紅地桐・鳳凰の丸文縫箔		江戸	18	C
22	狂言面 猿		江戸	18-19	A
23	狂言面 武悪		江戸	17	B
24	狂言面 祖父		江戸	19	C
25	山脇流狂言図 三冊の内		江戸	18	頁替